

# “学術の未来検討”

## ～次世代を明るく、楽しく、力強くするための活動～

### 1. 若手研究者のキャリアパス問題への取り組み

シンポジウムでの議論を通して、研究機関外での働き方についての情報や、学内キャリアセンターの大学院生への機能が不足していることが提起されたため、次アクションとしてこれらの情報収集・提供を行うことを検討している。

公開シンポジウム  
**博士キャリアの可能性**  
企業が博士に求めること

2018  
**10/27 sat**  
13:30-17:30  
日本学術会議 講堂  
〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34  
東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5番出口すぐ

18歳人口が減少を始め、いわゆる「2018年問題」が始まり、多くの大学が存続の危機に陥る中、博士号を取得した研究者が、大学で正規のアカデミックポストを得る道は非常に狭くなっています。本シンポジウムでは、アカデミアの外で活躍する博士課程進学者、博士号所持者をアカデミアへつなげる役割を持つ企業関係者、また博士キャリアについて施策を考える政府関係者に登壇していただき、博士に求められるものは何か、博士号が担保する能力とは何か、について議論を行います。これらの議論を通して、博士号取得者が社会のあらゆる場所で活躍する機会が生まれることを望んでいます。

12:30-12:40 開会挨拶  
\*出席者：日本学術会議常任委員、若手アカデミー各学アカデミーによる学術の水産部研究分科会副委員長、若手アカデミー代表

15:25-15:55 科学技術イノベーション人材政策について  
浅井雅司 / 文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 課長補佐

### 2. 研究者のライフワークバランス

学術界全体での「ワーク過剰」こそが原因であるという立場を取り、業界内でのワークの見直しに取り組む。  
⇒学協会の関係する問題の分析へ

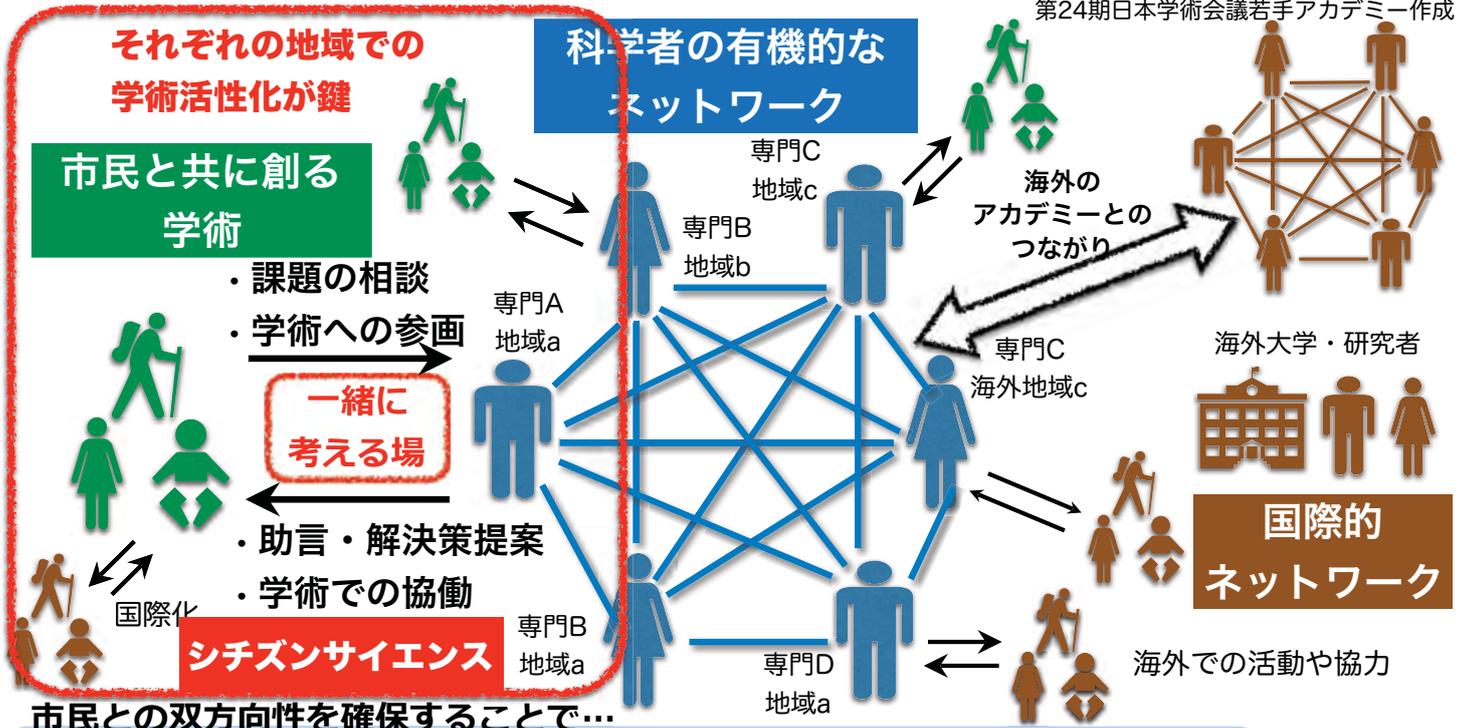
### 3. 学術のあり方に関する議論の準備

学術存続の危機に関する議論として、特に学術の多様化と後継者育成問題に関する議論を行う準備を開始した。特に人文系での人材育成や社会との関わり方について検討を行う予定。

## 市民から頼られ、市民を頼れる科学者集団を目指して ～若手が考える学術の持続性と社会の持続性の両立～



第24期日本学術会議若手アカデミー作成



- 社会課題に対して学術の多様性をもって取り組み可能。地域の国際化もサポート可能。
- 学者にない視点が導入可能。既存の学術の枠を超えた、新たな学術が創造可能。
- 人口減少・超高齢社会を克服する人材活用・人材発掘が可能。
- 若手の参加による柔軟な思考と行動の自由度、高い機動力に基づく、素早い取り組み。
- 若手からのボトムアップ活動を促進することで、研究者の公共心の醸成も促進。

社会、及び、  
学術の持続性  
向上に貢献